

「ゾーニングについて」【様式5用・資料】

□施設内を区分けすることをゾーニングといいます。

□今回の新型コロナウイルス感染症の高齢者施設におけるゾーニングは、下記①～③の者のいる区域とそうでない区域を分けることです。

(□陽性になった高齢者は原則入院となるため、確定患者が施設に留まる事は想定していません。)

□①～③の利用者がいる区域(レッドゾーン)とそうでない区域(グリーンゾーン)を明確に分けること。

□个人防护具の着用が必要な区域(レッドゾーン)と、そこで着用した个人防护具を付けたまま出て来てはいけな区域(グリーンゾーン)とに分かれます。

□レッドゾーンに入る前に防護服を着脱する区域(イエローゾーン)も決めておきます。

□スタッフ全員に一目瞭然で区分けが分かるように色テープなどを床に貼って表示する工夫も有効です。

□①～③の利用者は原則個室に移します。

□個室の数が少なく、③のときに複数の利用者が健康観察となるような場合は、健康観察者を1つの部屋に集める等の集団隔離とする運用方法を事前に決めておきます。

□レッドゾーンの利用者とその他の利用者の介護にあたっては、可能な限り担当職員を分けて対応します。

□担当職員を分けることが困難な場合は、グリーンから介護を始め→イエロー→レッド→イエローで終了の流れとします。

□食事介助・排泄介助(ポータブルトイレ含む)・入浴介助(清拭含む)は全てレッドゾーン内で行います。

□レッドゾーンでの介護にあたっては、部屋の換気を1・2時間に5～10分行います。その際、空気の流れがレッド→グリーンとならないよう注意します。

□それぞれの区域をスタッフ全員に周知し発生時には適切な行動が取れるよう、事前にゾーニングや防護服の着脱に関する研修会や実地訓練を行うことが有効です。

ゾーニングを必要とする時

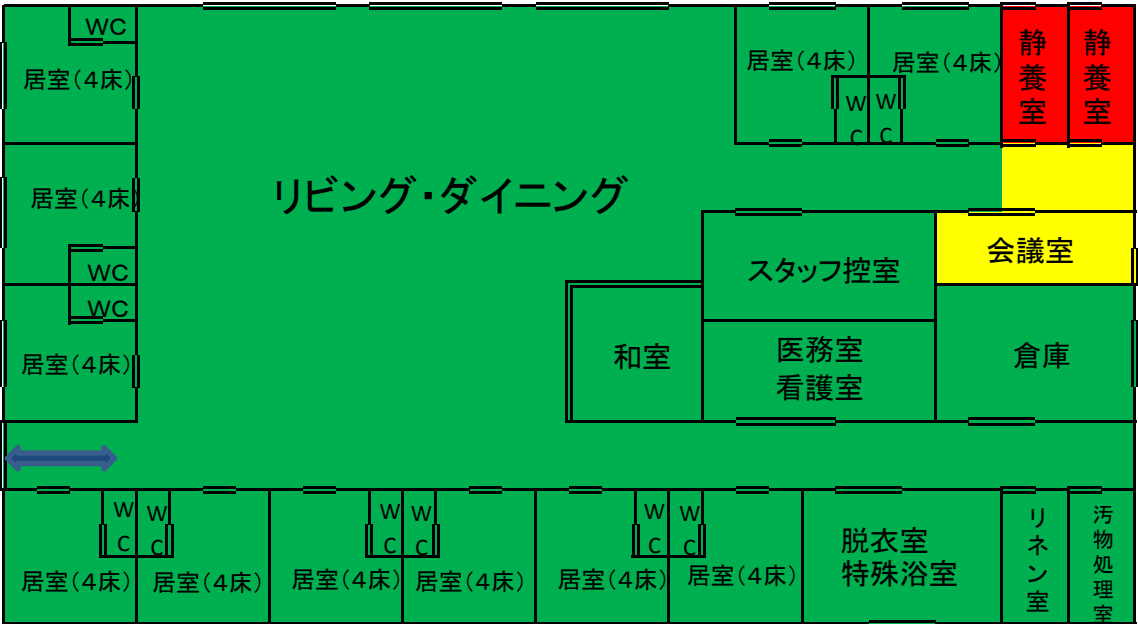
①利用者に症状が出てPCR検査結果待ちの期間

②利用者が濃厚接触者に認定されPCR検査結果待ちの期間

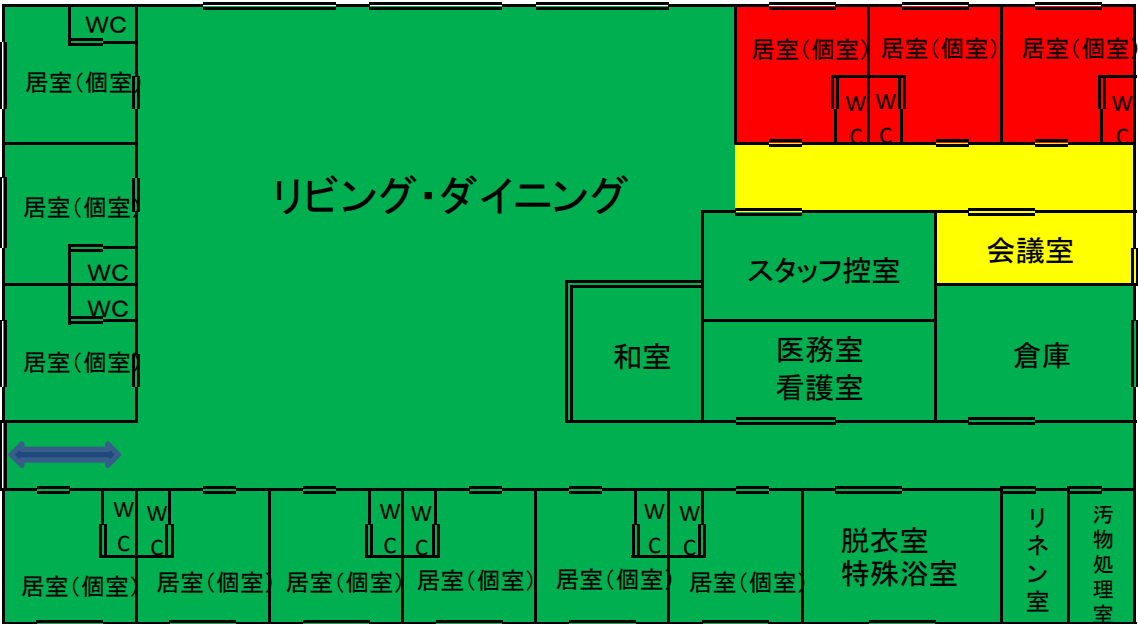
③利用者が濃厚接触者としてのPCR検査の結果、陰性となった後の健康観察期間(最終濃厚接触日から2週間)

□フロアの入り口から手前をグリーンゾーン、一番奥をレッドゾーンとし、グリーンゾーンの利用者とレッドゾーンの利用者とが生活上接する点を極力少なくすることが望ましい。

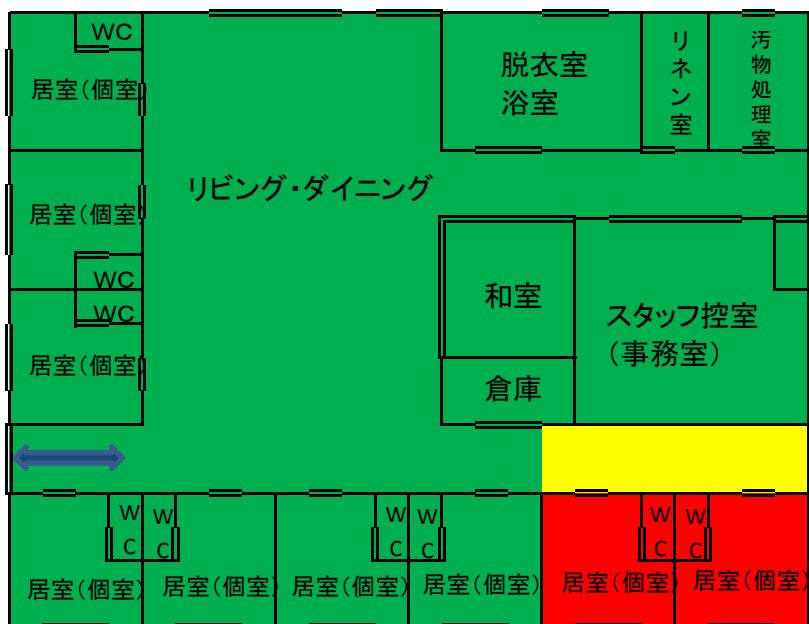
標準的なゾーニング例(1)多床室



標準的なゾーニング例(2)個室ユニット



標準的なゾーニング例(3)グループホーム(個室9床ユニット)



ゾーニング例(4)グループホーム(個室9床ユニット)(居室の変更が困難な場合)

